

NetWare 6.5 オペレーティングシステムのインストール

はじめに

この文書では標準的な NetWare 6.5 オペレーティングシステムを既に存在するツリーへインストールする手順を説明しています。

全体の手順では HP 製サーバのようにあらかじめハードウェアのインストールサポートプログラムが必要な手順を作成する場合があります。

NetWare 6.5 オペレーティングシステムのインストール

NW65OS CD をセットして、CD より起動します。テキストメニューより使用する CD のドライブを適切に選択して、DOS プロンプトまで進みます。以下の例は IDE CD より起動した場合の選択です。

Please Select One

I) Install New Server

I) Search for a IDE CD-Rom Drivers

A) Auto Terminate

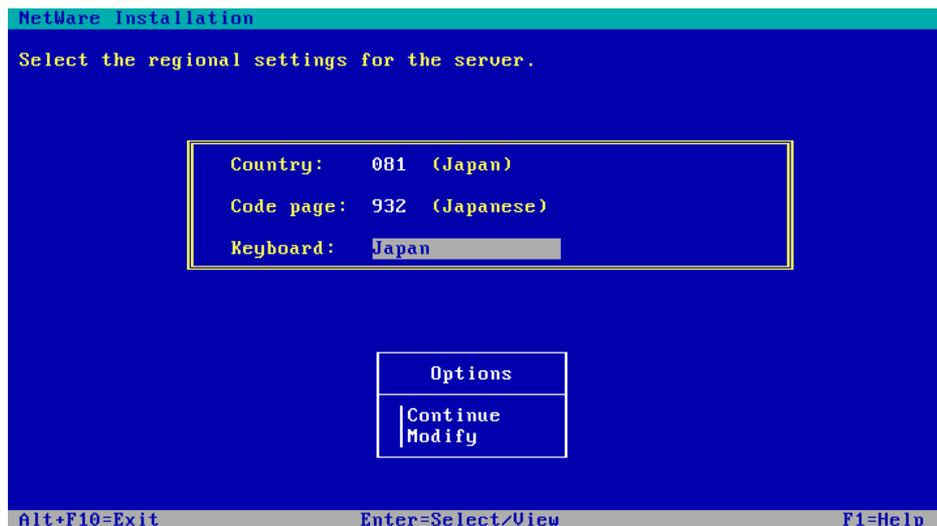
M) anual

インストールの開始

R:\> install.bat

言語の選択 -> English を選択

Regional の選択 -> Continue



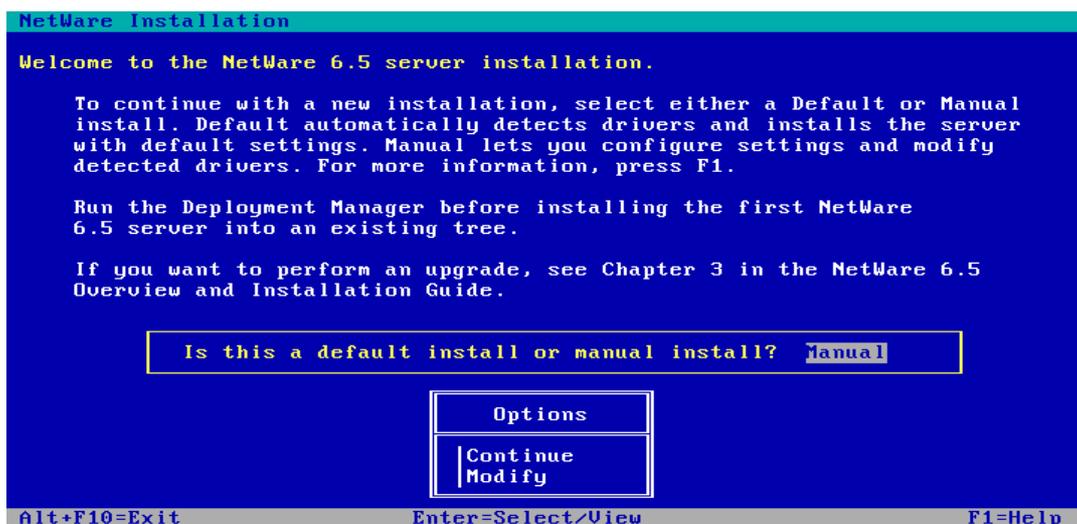
Country: 081 Japan
 Code Page: 932 Japanese
 Keyboard: Japan

※コードページは必ず Japanese を選択してください。

Software License Agreement -> F10 Accept
 Software License Agreement -> F10 Accept

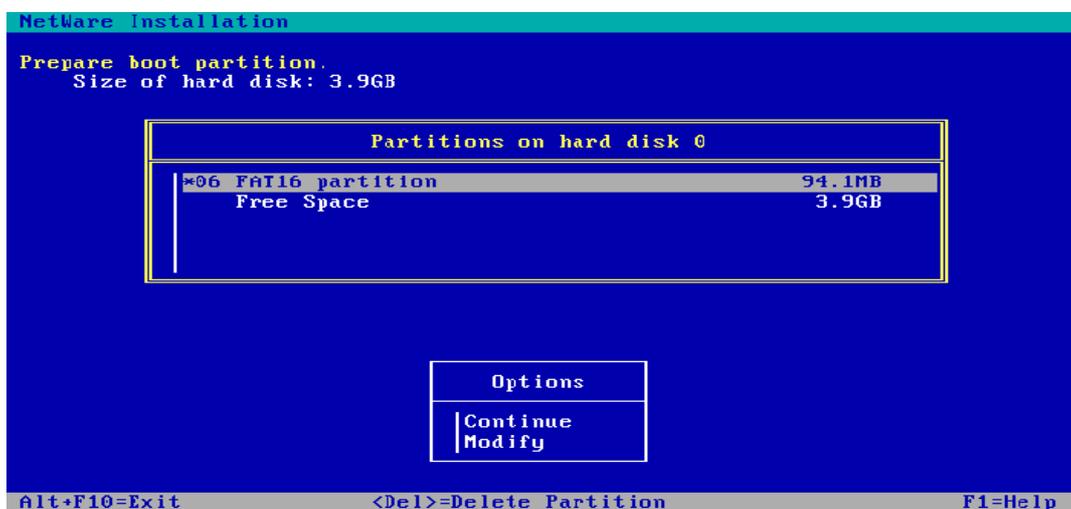
※2度出ます。

Welcome -> Is this a default ? -> Space キーを押して Manual に -> Continue

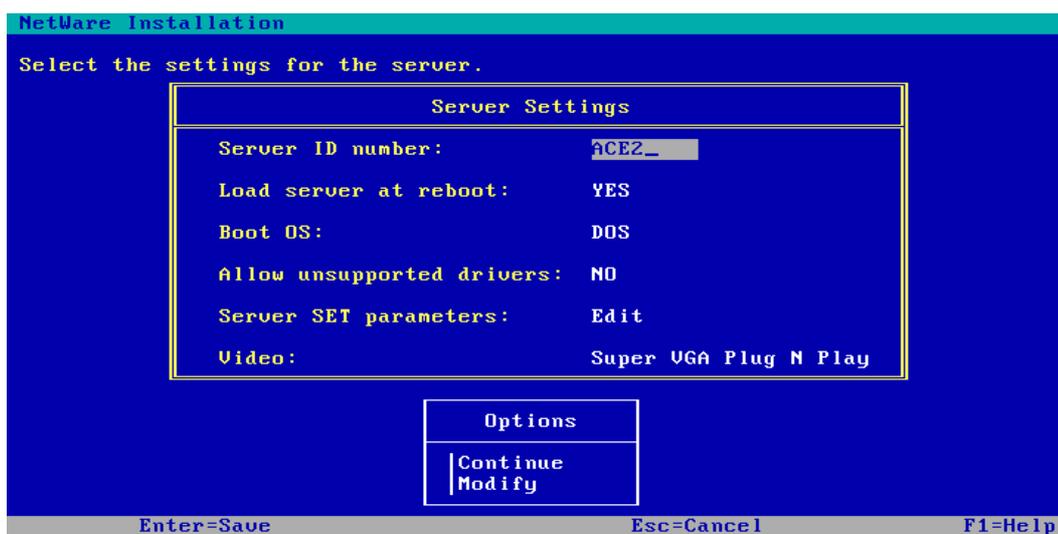


Prepare Boot Partition -> 必要に応じて Modify, 全てのパーティションが Free

Space である状態から Free Space を選択して Enter、DOS パーティションサイズをセットします。DOS Partition が作成されたら Continue



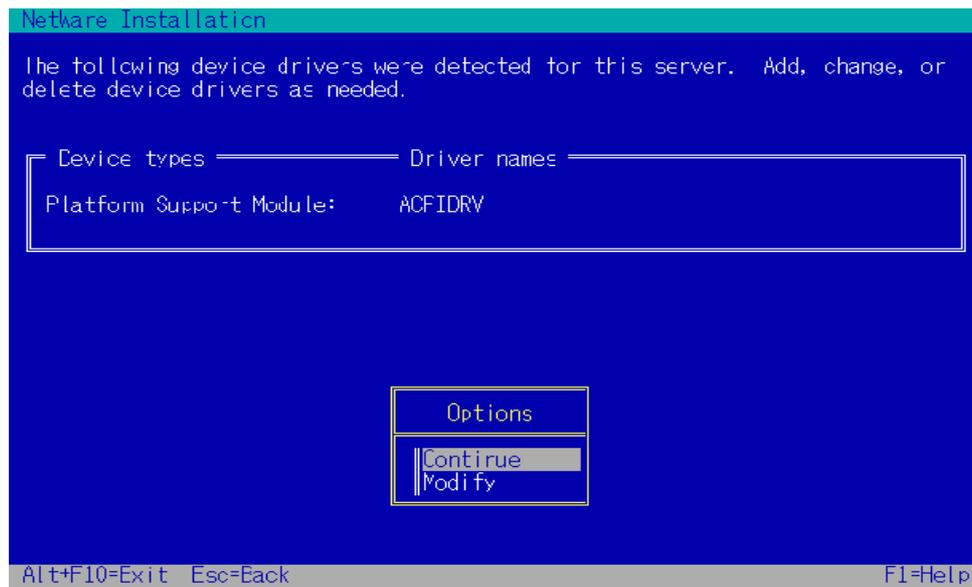
Select Settings for the server -> Continue



Server ID number	パラメータシート
Load Server at reboot	Yes
Server Set Parameters	インストールに必要なセットパラメタがあれば編集
Video	Super VGA PnP (480*600 は止むを得ない場合に選択)

- C: ドライブへコピーの開始 -

Platform Support Module (_____) ->
Continue

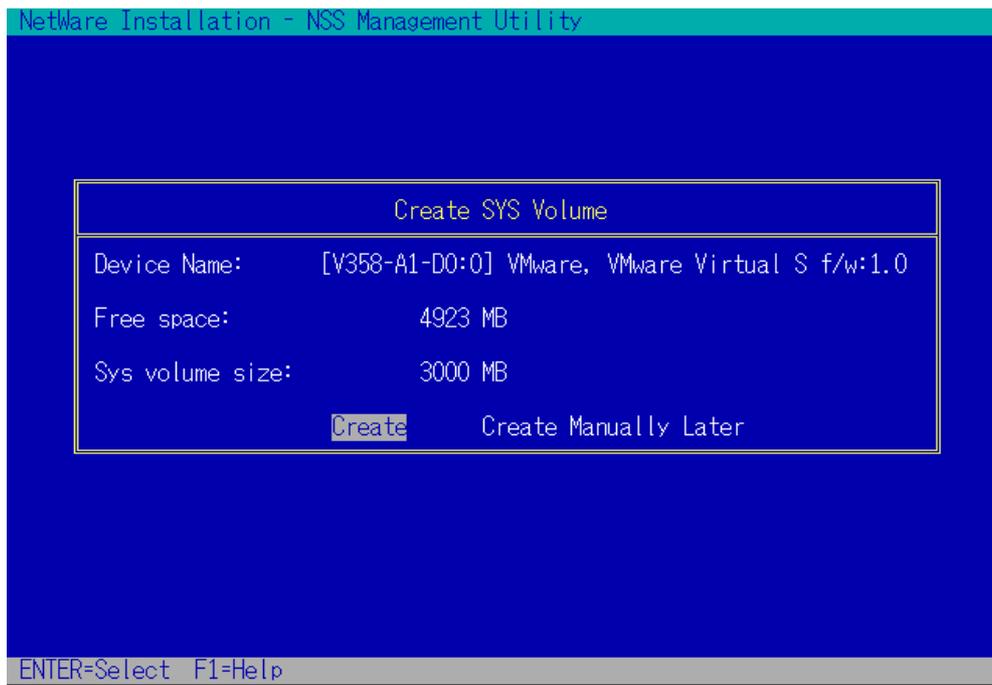


Storage adapters (_____)
-> Continue

Storage devices (_____)
-> Continue

Network boards
(_____) -> Continue

Create SYS Volume (SYS: のサイズはパラメータシート参照してください。
Default 4G バイト) -> Create



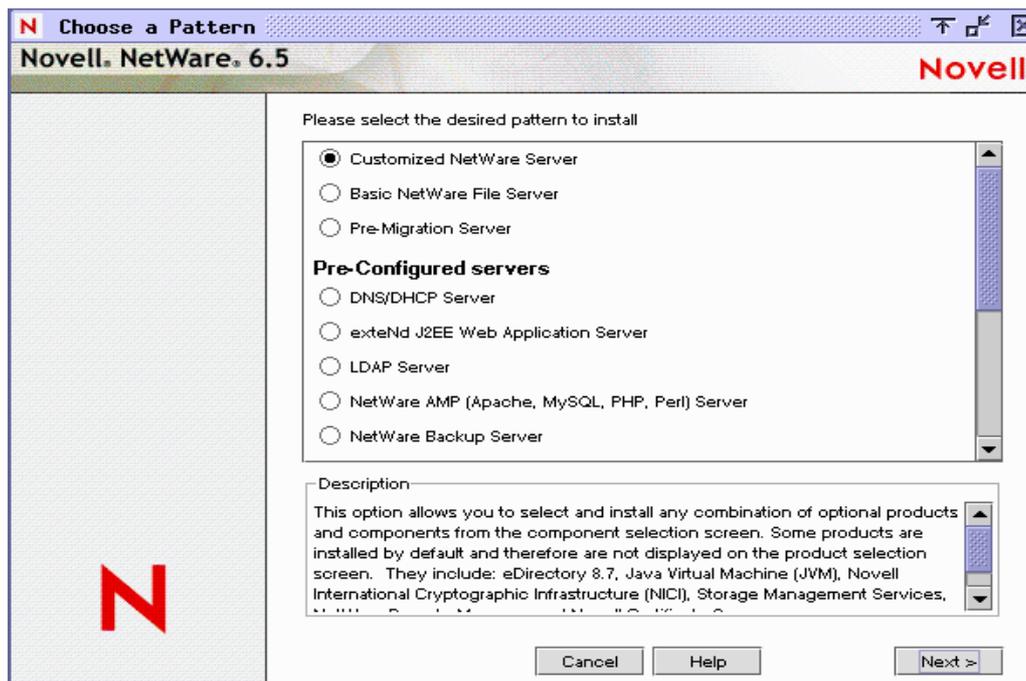
Mail Menu から、インストールのサマリを確認して -> Continue Installation

- Unicode Files の転送 -

- XConsole の起動 -

Choose a Pattern

次のサーバのパターンから 'Basic NetWare File Server'
を選択して Next



- [] Customized NetWare Server
- [※] Basic NetWare File Server
- [] Pre-Migration Server
- [] DNS/DHCP Server
- [] exteNd J2EE Application Server
- [] LDAP Server
- [] NetWare AMP(Apache, MySQL,Perl) Server
- [] NetWare Backup Server

Detail -> Copy Files

指示に従い CD を NW65PROD ディスクに交換します。

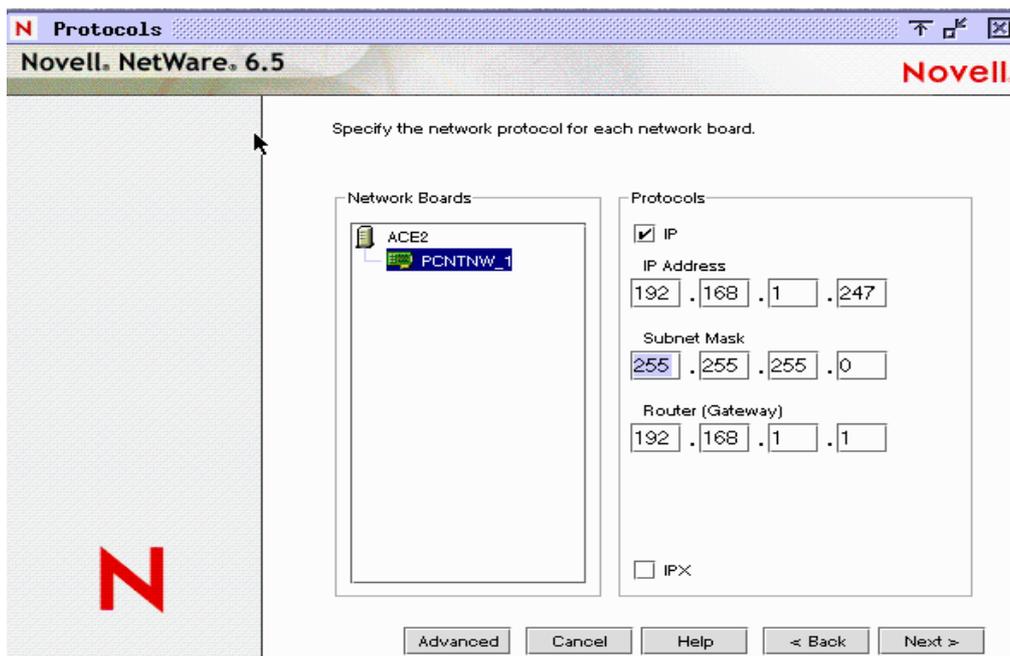
- ファイルコピー開始 -

サーバ名 (パラメータシート参照)

プロトコル (パラメータシート参照)

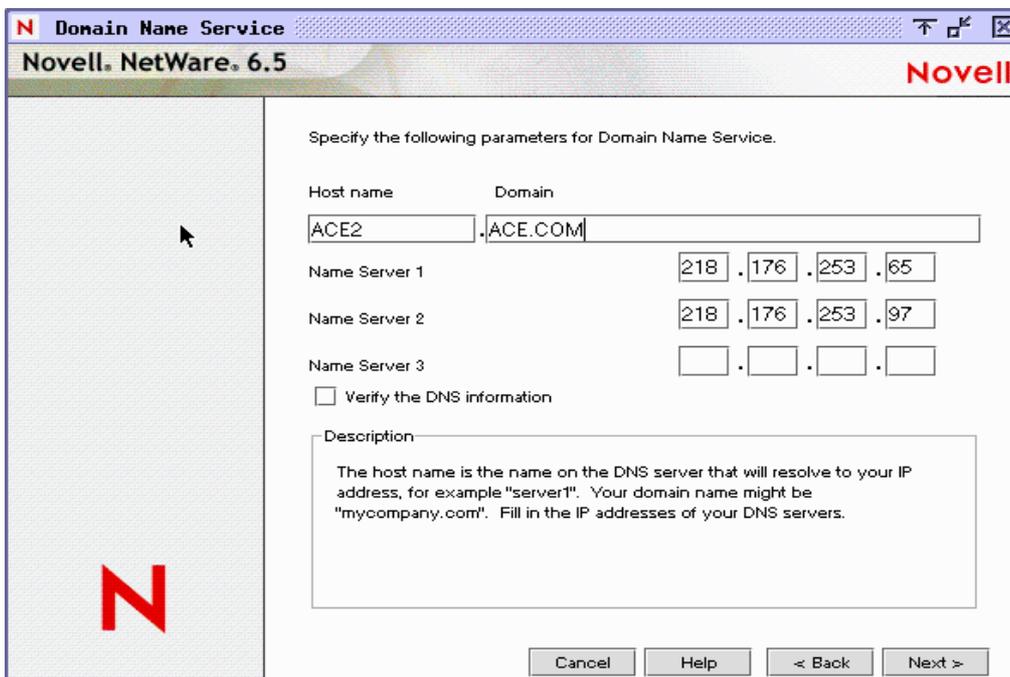
IP Address
Subnet Mask
Gateway

IPX



※ NetWare 4x のみの IPX 環境では IPX は必須です。

DNS -> HOSTNAME をセットして Next



Hostname: このコンピュータのホスト名 (DNS 名) とドメイン名

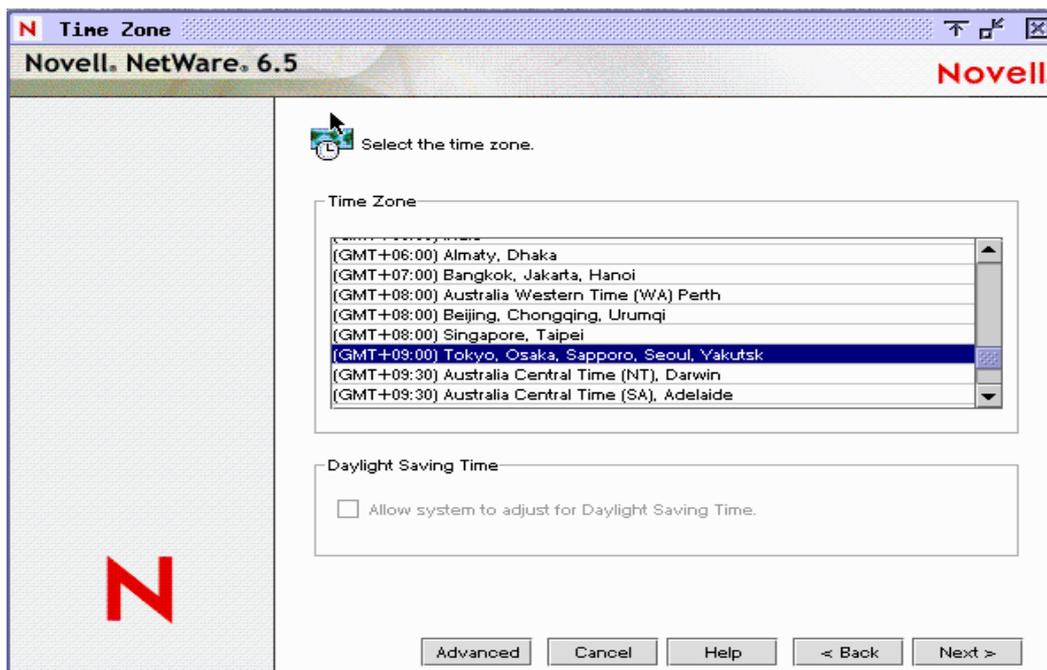
DNS を使用していなければホスト名 (サーバ名) のみセット

Name Server:

※この時点でサーバは DNS に登録済みである必要があります。

DNS を使用しない場合、「警告」 -> OK

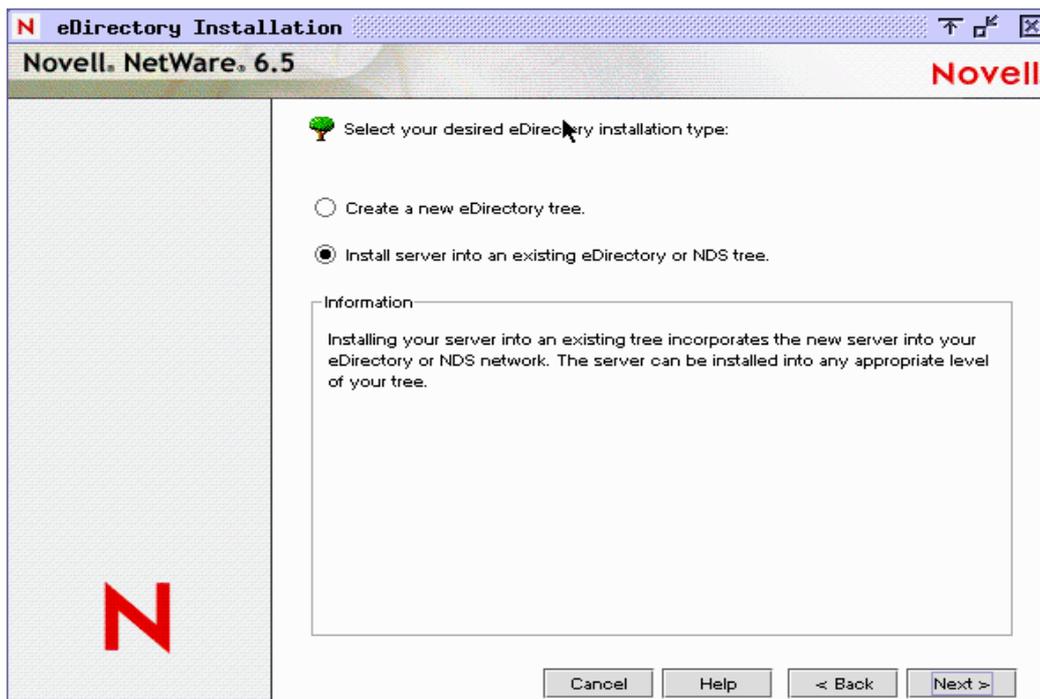
時間帯



GMT+9 を選択して Next

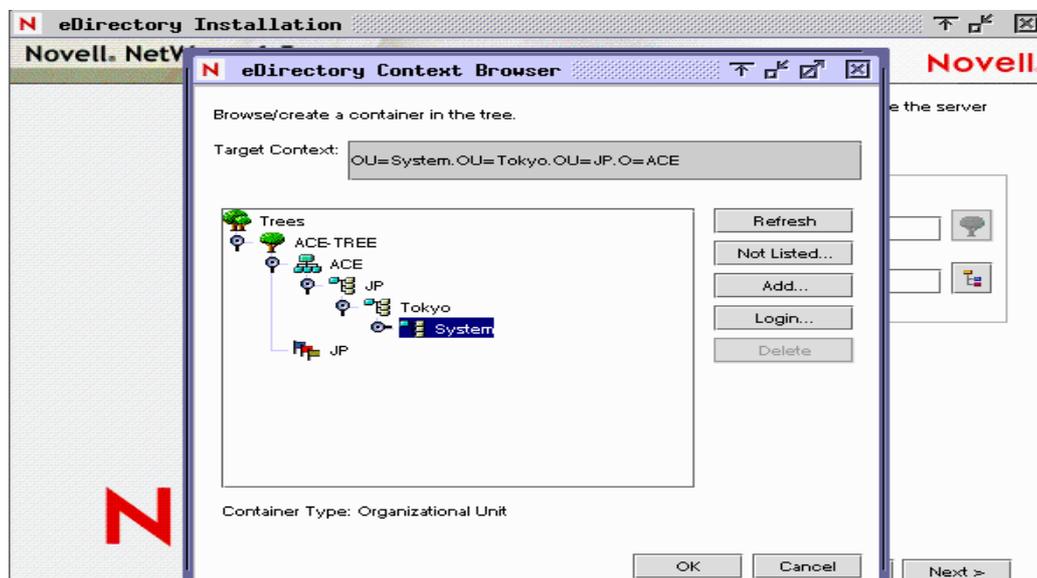
eDirectory のインストール

- Create a new eDirectory tree
- Install server info an existing eDirectory or NDS tree



既存のディレクトリへインストール -> Next

ツリー名とコンテキストをセット



ブラウズボタンを押して、ツリーの検索と、サーバをインストールするコンテナを検索してセットします。

Next

ツリーへログイン -> admin ユーザをブラウザしてパスワード
をセット -> OK

NDS/eDirectory Patch Detection -> Yes

Time synchronization -> Yes

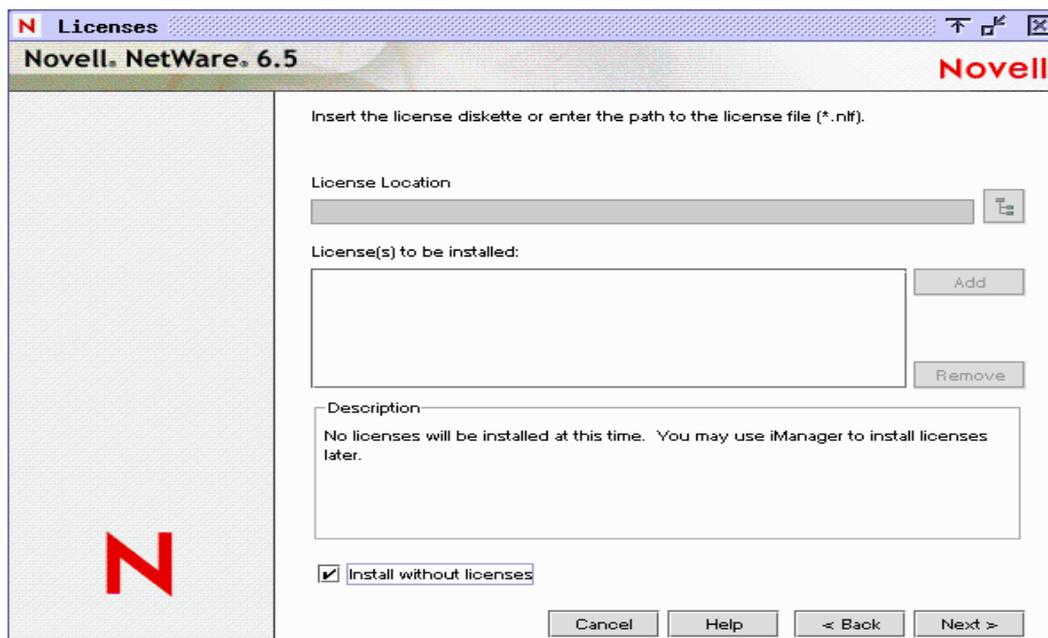
※ NW4 サーバ上で DSrepair がロードされている場合、ア
ンロードの確認ダイアログが出る場合があります。unload を
実行します。

eDirectory is installed on MyServer

サマリを確認して Next

ライセンスのインストール

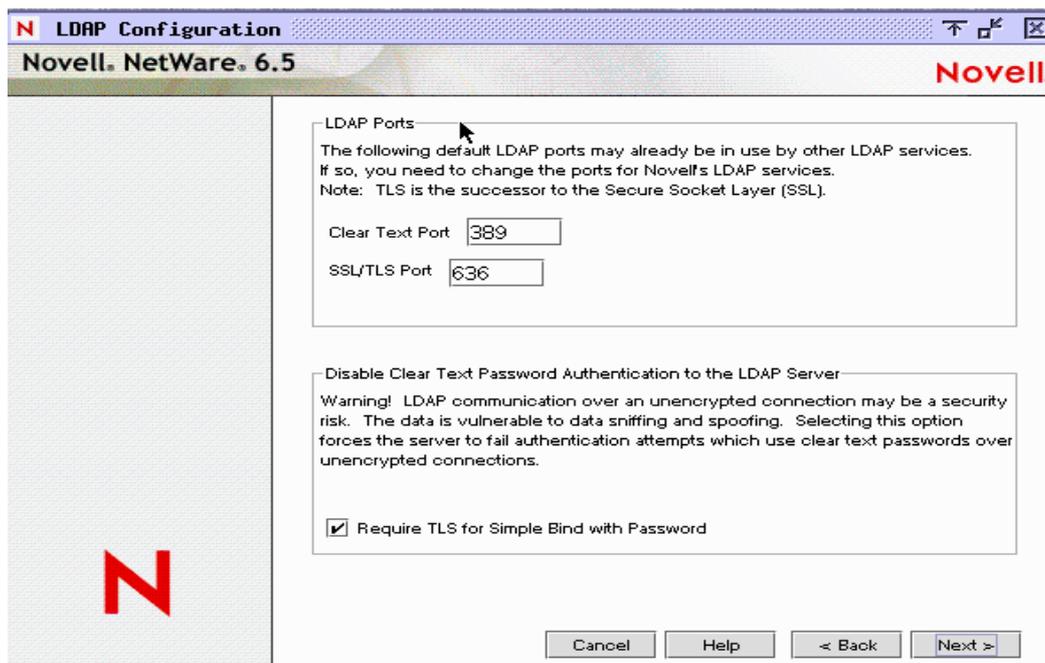
ライセンスファイル(xxxxxxxx.NLF) をブラウザしてセット
Next



ライセンスオブジェクトの作成コンテキストを確認して Next

※2台目以降のサーバはライセンスは不要な場合があります。

LDAP ポート Clear Text(389) SSL/TLS(636) を確認して Next

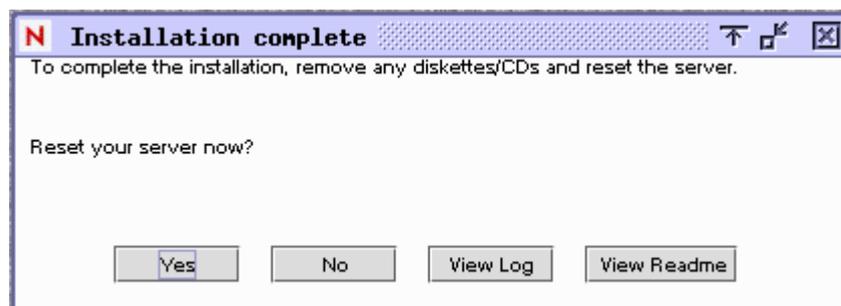


NMAS Login 方法の追加

NDS がチェックされていることを確認して Next

- ファイルコピーの開始 -

ファイルコピーが終わったら、指示に従い CD を抜いて再起動します。



再起動後の確認

DS の修復

時刻同期の変更

```
set timesync debug=7
```

monitor -> server parameters -> time

Single を Secondary に

```
set timesync type =secondary
set default time server type =secondary
set timesync time source = 次の Single サー
バ名
set timesync time configured source =on
set timesync write parameters = on
( NW4x 側 )
set timesync restart flag =on
```

autoexec.ncf より set default time server
type = を secondary に修正すること

Secondary を Single に

```
set timesync type = single
set default time server type = single
set timesync time configured source = off
set timesync write parameters = on
( NW4x の場合 )
set timesync restart flag =on
```

autoexec.ncf より set default time server
type 行を single に修正すること

レプリカタイプの切り替え

新規インストールしたサーバより DSrepair により、レプリカタイプを切り替えます。

```
: dsrepair -a -> advanced option ->
reprica and partition operations -> パーティ
ションを選択 -> Designate this server as the
new master replica
```

inetcfg の設定

LAN ドライバなどの情報を転送しますか? -> Yes

セットアップ方法 -> Standard Setup

再起動しますか -> No

プロトコルの設定を確認し、不要な IPX バインドなどがあれば削除します。

リモートアクセスの設定

inetcfg -> Manage Configuration -> Configure Remote Console Access -> Remote Console Access を Enable に

Autoexec.ncf より RSPX, RCONAG6 の行のコメントアウトを外して、任意のパスワードをセットします。

再起動後にリモートアクセスが有効になります。

iManager のインストール

サーバコンソールより ConsoleOne を起動し、インストールを行います。

: startx -> Novell -> Install

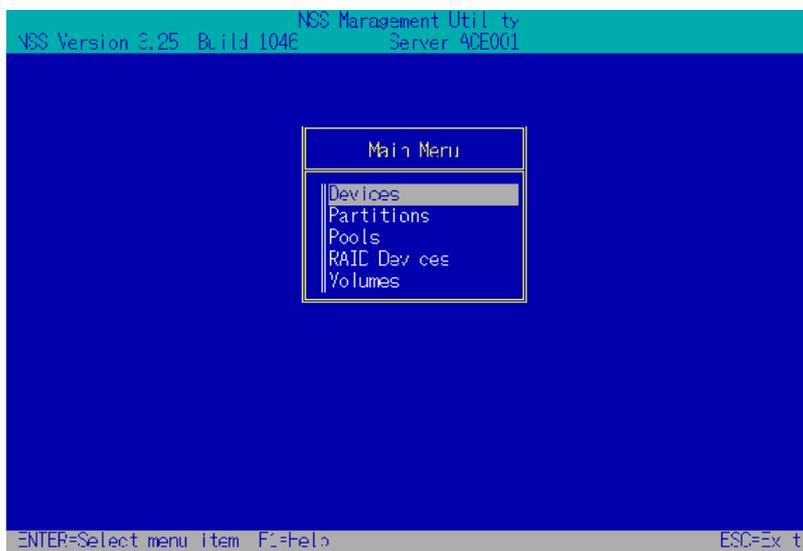
NW65PROD CD を挿入して、<NW65PROD>: をブラウズします。インストールスク립トを開いて Management を選択します。

ウィザードに従ってインストールを行います。

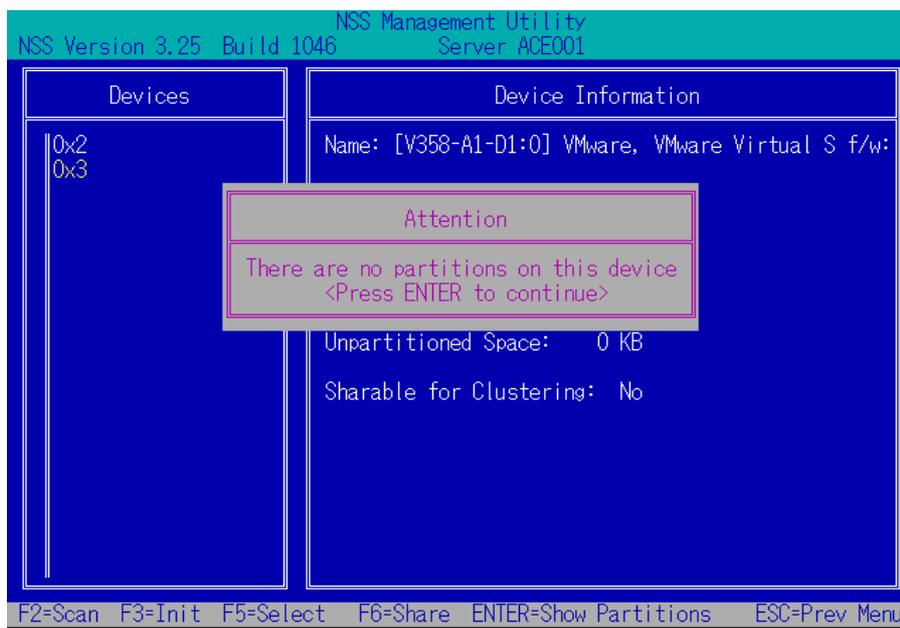
ブラウザより http://server_ip_address/nps/iManager.html を開きます。

NSS ボリュームの作成

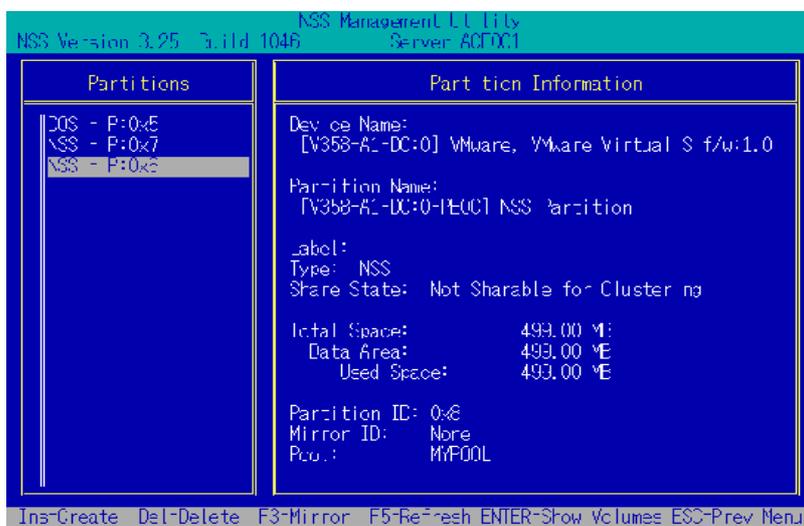
: NSSMU を起動します。



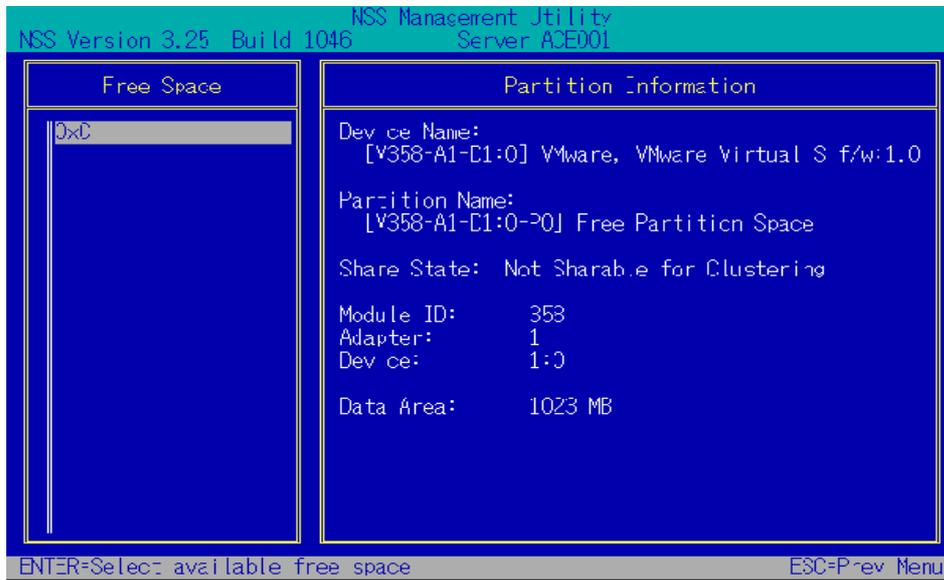
Devices より追加されたドライブを確認します。



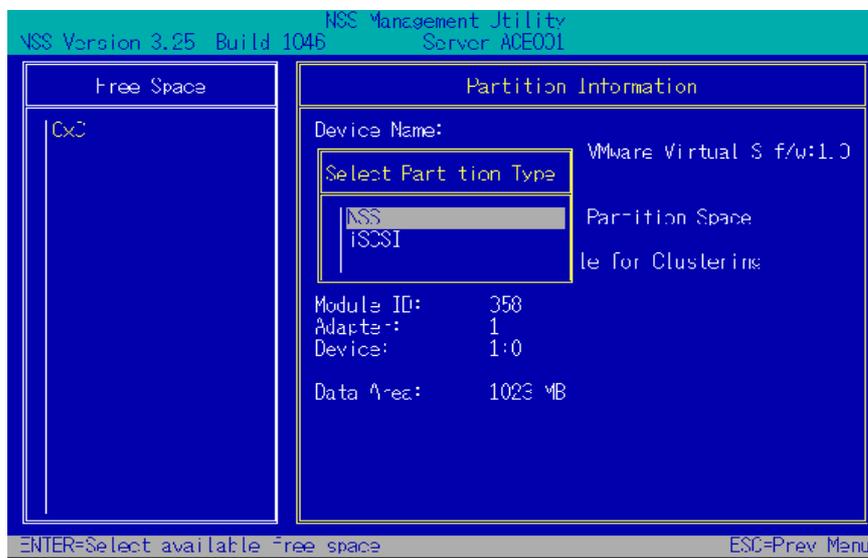
Partitions メニューから INS キーで新しいパーティションを定義します。



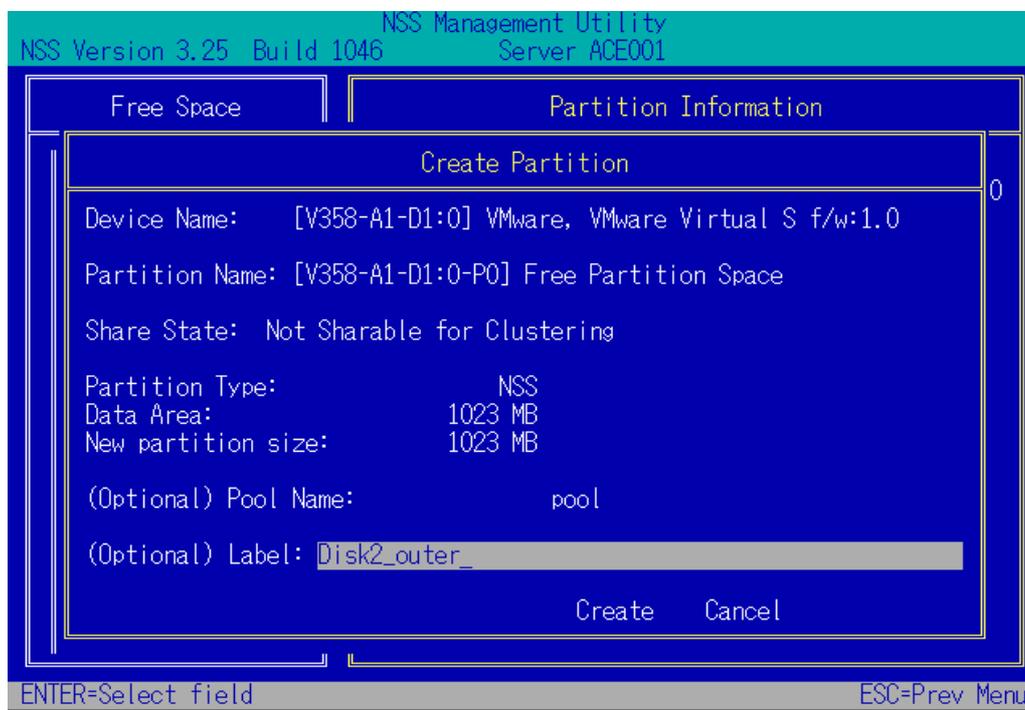
フリースペースを確認して Enter



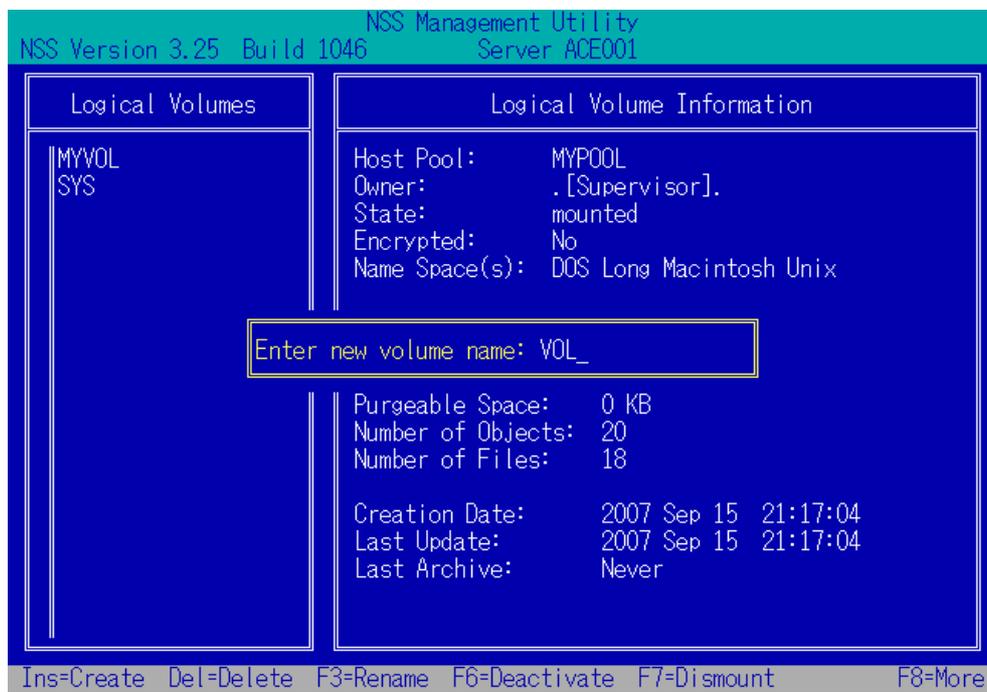
NSS を選んで Enter



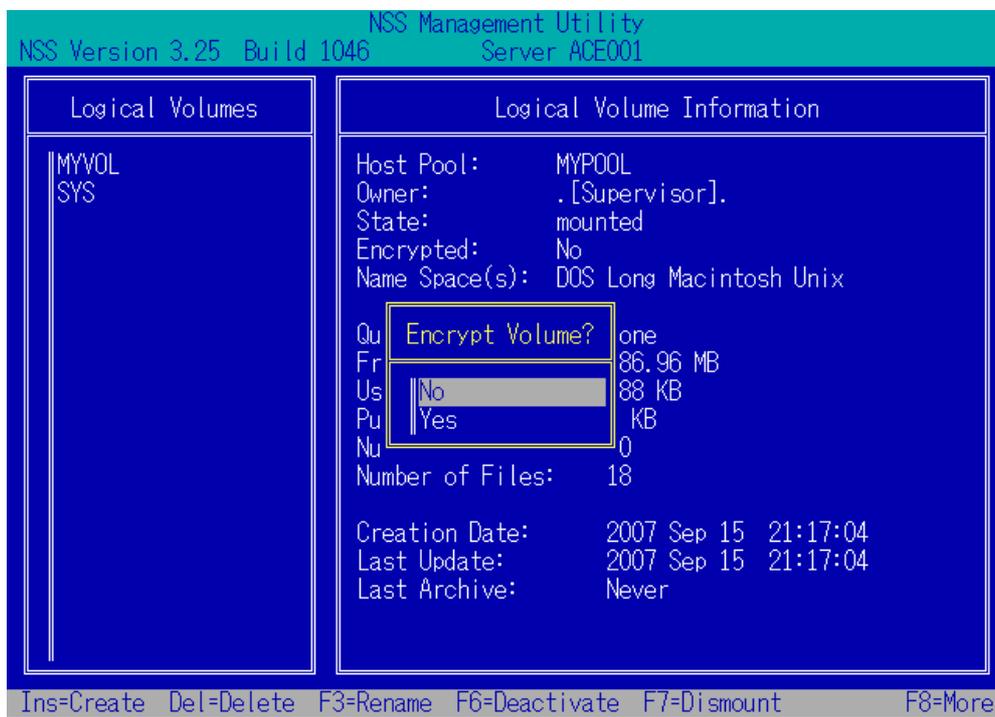
サイズを確認し、ついでに Pool Name(Optional) をセットして Create



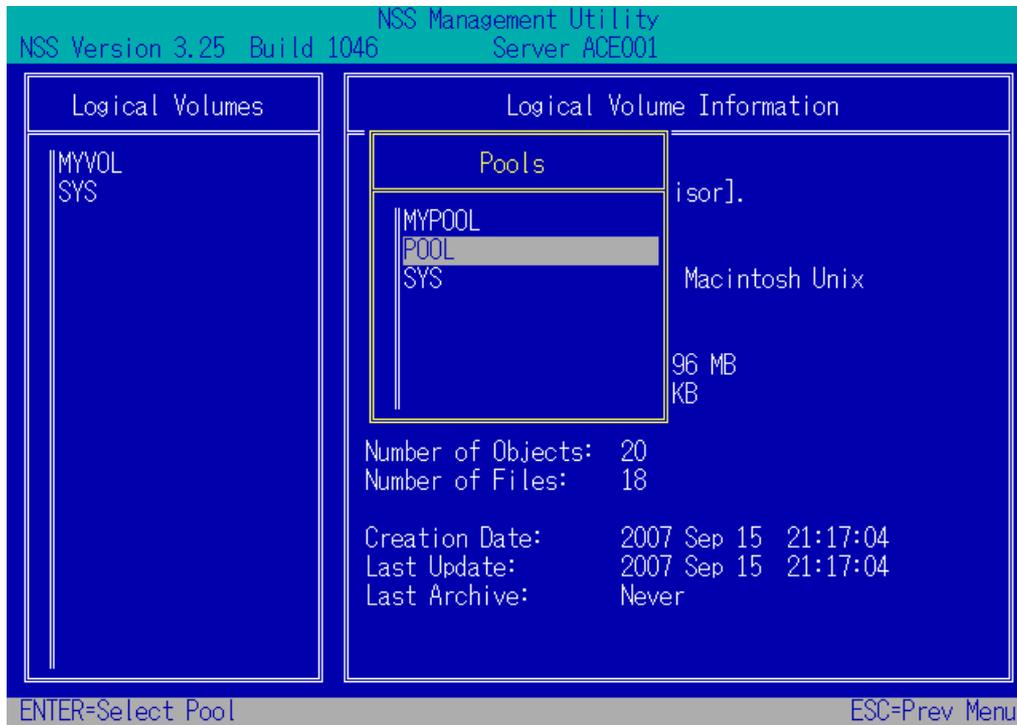
メインメニューから Volumes を選び Ins キーで新しいボリュームを作成します。



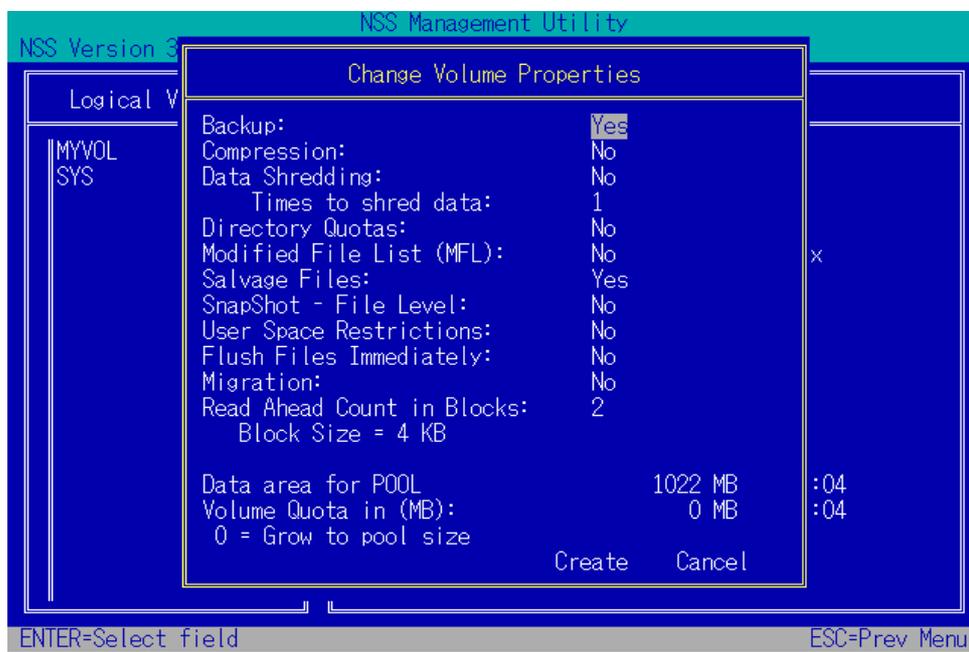
ボリュームは暗号化しません



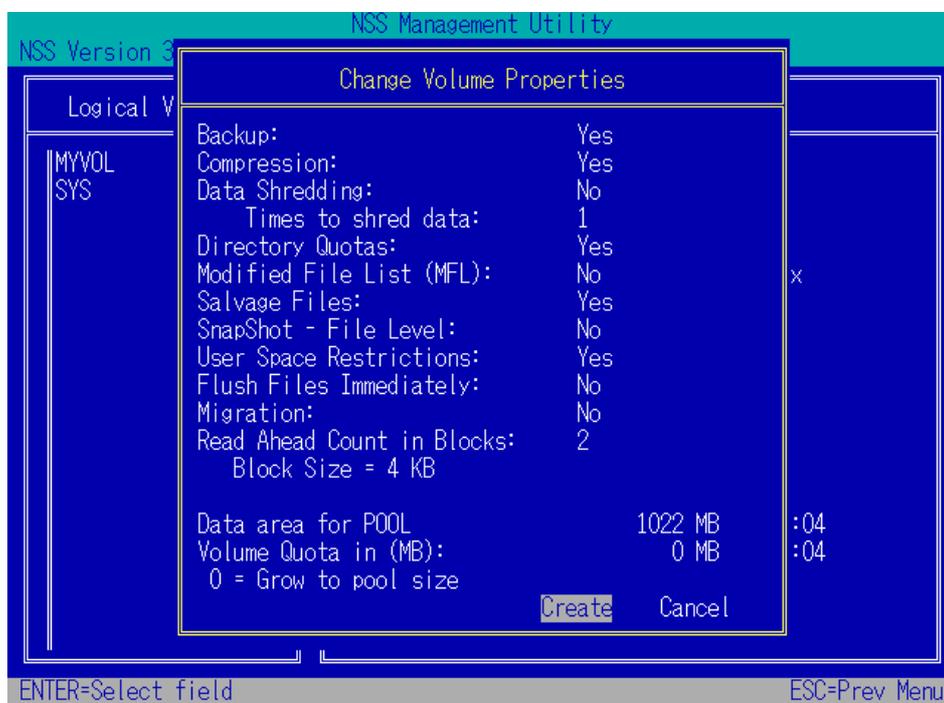
先ほど作成したプールを選択します。



デフォルトでは、圧縮(Compression) 容量制限(Directory Quotas), ユーザ容量制限 (User Space Restrictions) が Off になっています。



必要な項目を Yes に変えて、容量(Data Area for Pool) をセットして Create



以上です。